



まだ間にあう! 迷った末のおいもやさん

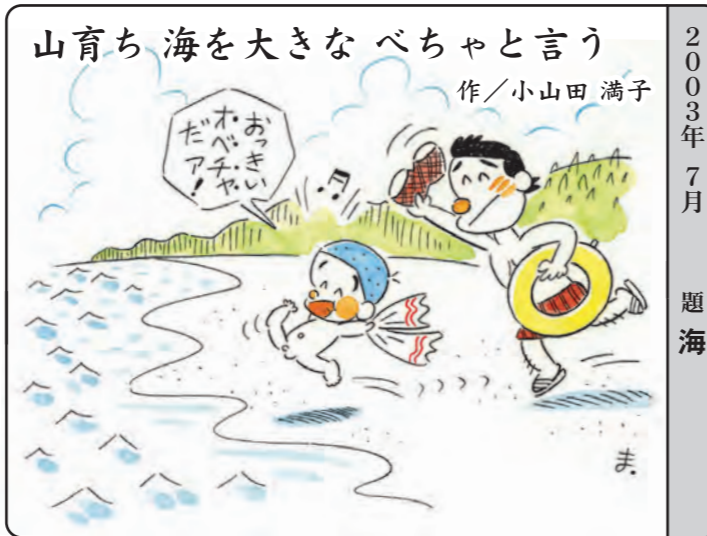
作/伊藤 楓

2003年 10月

題 食欲の秋

[伊藤 楓 さん]
初めて川柳の応募をさせていただきました。雨の一日、ちょっと気分転換で思いついた一句です。よろしくお祈りします。

[西沢まもるの一言]
ほんとに早くしないと行っちゃう“焼きいも屋さん”がいるんですよ。あわててクルマとかにぶつからないようにしましょう。



山育ち 海を大きなべちゃと言う

作/小山田 満子

2003年 7月

題 海

[小山田 満子 さん]
子供が小さい頃、車窓から初めて海を見た時、「大きいおべちゃん(お風呂)だね」と言ったのを思い出しました。

[西沢まもるの一言]
夏は海ですね! 初めて海を見た時の感激は生涯忘れません。海なし県に生まれた私たちにしか分からない感動かも。



新入生 ランドセルが歩いている

作/小山田 満子

2003年 4月

題 新入生

[小山田 満子 さん]
ビカビカのランドセルを重そうにしょって、まだ幼く、なんともかわいい新入生。ガンバレ!

[西沢まもるの一言]
ほんとうに新一年生はかわいいです。ランドセルに直接手や足が付いているみたいに見えます。クルマに気を付けてね。



一億円 当たった初夢 ぱっと覚め

作/宇田 半茶坊

2003年 1月

題 正月

[宇田 半茶坊 さん]
今回初めて宝くじを一枚買ったら、当たった夢をみました。覚めた後のむなしさはなんとも言えないわびしいもの。十日間のはかない夢でした。

[西沢まもるの一言]
半茶坊さん、もう一度正月二日に戻って、ぜったい初夢のつづきを見ましょう。夢でも当たるのはいい気分です。



テレビ見て 晩酌涙 もろくなり

作/宇田 半茶坊

2003年 11月

題 お酒

[宇田 半茶坊 さん]
自分の実態そのものを詠みました。お酒は好きで、毎晩飲みます。テレビの悲しい話題に思わず涙。つくづく「歳したナー」と思います。

[西沢まもるの一言]
半茶坊さん、よく分かります。私なんか飲めないのに泣き上戸です。動物の感動ものに弱いです。



亡き夫が 煙にのって 里帰り

作/青木 すわ子

2003年 8月

題 お盆

[青木 すわ子 さん]
夫が亡くなって八年たちました。早いものです。「川柳広場」は、毎回楽しみに拝見しております。まもる賞、ありがとうございました。

[西沢まもるの一言]
やがては我が家にも、こんな日が来るのでしょうか。私テキには、みんなが待っていてくれる仏様が理想ですね。



母の日の プレゼント代 前渡し

作/鎌田 洋子

2003年 5月

題 母の日

[鎌田 洋子 さん]
母の日は、子供と夫のプレゼントに思わずほほがゆるむ嬉しい一日ですね。前渡しをしたことは無いのですが、何となく五七五になりました。

[西沢まもるの一言]
母は偉大です。文句なしです。でも、ときたま、そうではないお母さんもいて、とても悲しいです。



カラオケで 磨いた声で 「福は内」

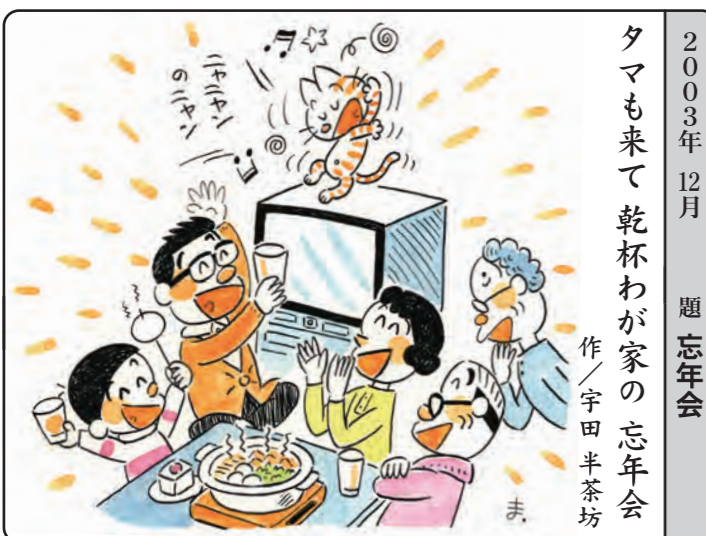
作/宇田 半茶坊

2003年 2月

題 豆まき

[宇田 半茶坊 さん]
妻の「福は内」を聞き、これがカラオケで鍛えた声かと納得。最近では豆まきの声を聞かなくなった気がするが、残したい日本文化の一つです。

[西沢まもるの一言]
「『福はウチ〜イ』。このひと声には元がかかっているのよ」。ごもっとも。みなさんのお宅、鬼も不況も逃げ出しましたね。



タマも来て 乾杯わが家の 忘年会

作/宇田 半茶坊

2003年 12月

題 忘年会

[宇田 半茶坊 さん]
妻と息子と私、それに飼った猫のタマ(実名)とで我が家の忘年会。タマには魚のシッポ、それに乾杯用の牛乳、座布団も用意。家族の一員です。

[西沢まもるの一言]
半茶坊さんのマネをして、私も一句。「おらとこじゃ わんこもホロ酔い忘年会」。ご粗末さま。



雨漏りの 屋根普請する ポチの家

作/宇田 半茶坊

2003年 9月

題 備え

[宇田 半茶坊 さん]
もう老衰で亡くなった愛犬の小屋、今も残っています。台風などの時に屋根を直したり、ペンキを塗ったりしたことを思い出して詠みました。

[西沢まもるの一言]
マンガでも、台風が近づくと犬小屋の点検を…、というのが定番です。だいじな家族の一員の住まいですからね。



父の日を 自己宣伝のお父さん

作/鎌田 洋子

2003年 6月

題 父の日

[鎌田 洋子 さん]
夫は、母の日が過ぎると「来月はお父さんの日だ」と言うのです。家中で笑いました。その声が今でも耳についています。お父さんは一番大切な人です。

[西沢まもるの一言]
どのお宅も「お父さん」は影がうすいですね。たまには自己宣伝しないと忘れ去られてしまう… かも。



旅立ちの バッグに 詰めた 母の愛

作/小山田 満子

2003年 3月

題 旅立ち

[小山田 満子 さん]
卒業・進学と、春は新しい出発の時! 子供が巣立っていくのは喜びでもあり、少し淋しい気もします。

[西沢まもるの一言]
18歳の私が上京する時、母が言いました。「ちゃんと洗濯しろよ」。そして2週間後、母はあの世へ旅立ちました。色々な旅立ちがありますね。